

ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会（第5回） 議事要旨

日時：令和5年3月17日（金） 10:00～12:00

会場：中央合同庁舎第3号館 水管理・国土保全局 総務課内会議室

<第2回ワーキング会議の結果報告について>

- 1回目に参加した方に2回目も参加頂いた。全体的に好評で、参加された学生たちも熱心に取り組んでいただいた。
- 目の見えない方同士でも、普段使用するツールによって、「触地図がいい」「チャットボット」がいいという多様な意見があった。特に触地図は着色されたことで、様々な主体で使えるものになったと思う。
- 情報・学習編テストサイトは、音声読みあげに対応していた点と、内容が分かりやすく好評だった。
- 「重ねるハザードマップ」は、全国的に閲覧できるなど検索性にメリットがある。まだ音声対応について修正中ということなのでこれからも改善をすすめていただきたい。
- 触地図は、議論を重ねながら改良したことがよかった。今後、様々な方にも利用していただき、対象に合わせて、使い方・目的を明確にすることが大切。ただし、避難経路はどこですかと聞かれたときに、この触地図ではメンタルマップとして使用することは難しいため、使用用途が大切である。
- チャットボットは、限定された情報内容の提供のため、情報・学習編を事前に知ってもらった後などで利用することが望ましく、誤解がでないような活用方法が望ましい。
- 3Dマップについては、これから民間も3Dデータの活用を積極的にしていってもらうことを期待する。そのためには、基盤となるデータがしっかり整備されていることが大事だと感じた。

<検討会報告書（案）について>

- 検討会報告書（案）には、具体的にどうすれば良いかが書かれているため、自治体職員に有益な資料になるであろうと感じた。また、都道府県や国交省等が自治体を支援していく必要性についても更に明記しても良いと感じた。
- ワーキング会議では障害の対象が視覚・聴覚が主であったため、今後対象を増やしていくことが大切である。
- 総務省が公表している、「みんなの公共サイト運用ガイドライン」についても検討会報告書にて紹介し、参考にさせていただくことが良い。

- みんなの公共サイト運用ガイドラインと今回の防災の話は少し質が違うところがある。命にかかわる問題を含むということです。いきなり AAA は大変だと思うため、ここでは、「AA レベル以上」という表現にすることを提案する。
- また、ここで扱う情報は、命にかかわる非常に重要な情報であるため、一般的な公共サイトとは扱いを変える必要があるという趣旨が入ると良い。
- 触地図は、想定される使用方法があることについても記載いただきたい。
- 「重ねるハザードマップ」の説明や操作方法についても記載してほしい。
- 外国人への対応として、「やさしい日本語」への対応等の記載についてもお願いしたい。
- サイト内で文字サイズを変更するボタン等を設置するというよりは、パソコンや、スマホの設定で文字サイズを変更することを推奨したほうがよい。理由は、他のサイトを閲覧する際も共通して閲覧できるためである。
- 浸水想定区域図は、既にオープンデータとなっているものの中にも不備も確認されているため、規格化が重要である。国土地理院にて整備している、浸水想定区域図の maxall データだけでも、プロ向けに公開していただきたい。
- 今後の姿としての Web サイトの Web アクセシビリティ対応として、画像に対する注意点も記載いただきたい。
- 自治体では概ね、ハザードマップ作成が防災部、要配慮者への対応は福祉部となっているため連携が必要であり、自治体ならではの周知の仕方が課題であるため、広報の仕方の問題定義も記載しても良い。
- 「特別扱い」という記載が目立つため、「誰もが使いやすくなる」つかいやすくなるということを前面に出すよう記載いただきたい。
- 点字は視覚障害者にとって重要なものであるという記載した上で、使えない方もいるという書き方、拡大文字の文言も記載いただきたい。
- ハザードマップを見る際のアプリのアクセシビリティの考慮も重要である。
- 中学生だけでなく教育での活用を推進する旨や特別支援学校の事例も記載したいと良い。
- また、大学でも個別避難計画に基づいたワークショップなども行うようになっているので、記載してほしい。日本学生支援機構が「教職員のための障害学生修学支援ガイド」を作っていて、その中に、「災害時の支援」という項目があるため、このような紹介をしてほしい。
- 本報告書そのものも、アクセシビリティ対応したものとして公表していただきたい。ワードデータの場合はテキスト読み上げに対応したデータとする方が良い。
- 自治体の部署や当事者がどのようにつながっていくかが重要となってくるため、好事例を今後は収集し、フォローしていく枠組みも重要ではないか。
- 水害以外のハザードマップへの展開についても記載をいただきたい。

以上